

日月会 プレ・フォロ 第12回 議事録

日時 2012. 01. 21 (Sat.)	時間 13:30-15:30	場所 武蔵野美術大学建築学科研究室 内	記録 更田邦彦
出席者(敬称略・順不同) プレ・フォロメンバー：真壁、寺田、吉村、更田			
陪席：			
配布資料 プレ・フォロ第12回 議案書（事前プレ・フォロメーリングリストにて会長提示）			

事録議	備考
<p>1. プレ・フォロ未定メンバーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩淵ゼミ：会議中に真壁さんから池野秀基さんにお電話していただき、池野さんから直接ご了解いただいた。 ・ 宮下ゼミ：進展なし。 	<p>残りは宮下ゼミメンバーのみとなった</p>
<p>2. 日月会名誉会員追加推薦について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真壁さんから去年同様、阿部公正さんを名誉会員に推薦したいとの提案があり、その手続きなどについて協議した。 ・ 阿部公正さんは2004年に他界している。亡くなっている方の場合、推薦にあたり事前にご遺族から了解をいただく必要はないのではないか。 ・ 総会で承認を諮り、承認された場合、ご遺族にその旨の報告をすればよいのではないか。 ・ 真壁さんに推薦状を提出していただき、次回プレ・フォロで再度協議して、総会に諮るものとする。 	
<p>3. プレ・フォロを会則に定義する件</p> <p>（会長提案の会則・規則改定案はメーリングリストにて配布のプレ・フォロ第11回議案書による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の第11回プレ・フォロに引続き、プレ・フォロを日月会会則に定義する件について協議した。 ・ 前回、「プレ・フォロは、誰のため、何のため、存続の意義は？」 「プレ・フォロの理念や設立の主旨を謳っておく必要がある。」「本 会役員・執行部会との関係や位置づけも記したい。」 といった意見をもとにさらに意見を求めた。 	

・その結果、長く「プレ・フォロ」の存在理由をブレないようにしておくためにも、会長提案の追加文面も加えて、会則に表記しておくべきという意見に収束した。

以下、会則・規則の修正案を示す。(第五章に記載することに変更した)

会則部

第五章 プレ・フォロ

第14条 (プレ・フォロ)

本会には会員の幅広い意見を取り上げ協議する場として、第15条に決められたメンバーで構成される「プレ・フォロ」と称する会議を設置する。

「プレ・フォロ」は、本会の活動の方向性を定めていくことを目的をして随時開催し、本会の運営に反映すべくそこでの協議内容を本会執行部会に伝えるものとする。

また「プレ・フォロ」は、本会役員・執行部会に助言を与え、会の運営に協力するものとする。

なお、プレ・フォロで協議された内容は、規則に定められた方法により会員に周知するものとする。

第15条 (プレ・フォロの構成)

プレ・フォロは次のメンバーにより構成される

1. 5期ごとに選出された1名以上の正会員
2. 各ゼミ・各スタジオから選出された1名以上の正会員
3. 特別会員の中から選出された2名以上の特別会員かつ正会員
4. 会長

規則部

8条 会員への周知方法

1. 総会で承認された予算・決算・事業計画・事業報告は、本会ホームページおよびメールマガジンにより周知する。
2. プレ・フォロで協議された内容は、プレ・フォロで定めた担当者が議事録にまとめ、それを執行部会へ報告する。それを受けて執行部ホームページ委員は、本会ホームページに議事録を掲載し、会員へ周知するものとする。

<p>4. 来年度の日月会の活動や運営に求めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員の作品の見学会や展示会などをもっと、学生他各方面に周知して、会員の参加機会を設けることはできないか。 ・ 上記事項は、新しく発足した「歴文・フォロ」の活動の一部として、取上げていけばよいのではないか。 	<p>会長から「歴文・フォロ」部長の木岡氏に伝え、検討していただくものとする。</p>
<p>5. 芦原賞・竹山賞の授賞式の開催について</p> <p>(学科主任の高橋先生から日月会の意見を聞きたいとの要請があった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日は、卒業制作講評会と同じ日でよいが、卒業制作講評会・表彰式終了後に、芦原賞・竹山賞の表彰式を行うことはできないか。 ・ 卒業制作の審査・講評会を前にずらして、16:00 ごろから芦原賞・竹山賞の表彰式を行うよう、建築祭のプログラムを変更してもらいたい。 ・ 上記理由として、 <ol style="list-style-type: none"> 1) 鷹の台校舎に10:30に集まるのは、OBOGにとっては厳しく、参加モチベーションが上がらない。 2) 芦原賞・竹山賞の表彰式を卒業制作講評会の後にすることで、芦原賞・竹山賞の表彰式にも多くの学生に参加してもらえる。 3) そうすることで、学生に卒業生の仕事や活動について紹介できる、いい機会となるはず。 <p>といったことがあげられた。</p>	
<p>6. その他</p>	